

測定観測のデータは 地震予知にも有効なものであろうし 大陸海洋のもつ諸問題の解決にも貢献することであろう。一方 日本の試錐掘さく技術の点で 日本の複雑な地質条件を克服して オールコアリングでしかもひじょうに硬い岩石を掘さくすることが可能であるという見通しがえられている。しかしながら 深層試錐は経費の面でかなり多額の費用が必要とされる。したがって 現在のところ世界でも着手している国々はすくない。けれども その困難をのりこえて深層試錐を実施することにより 島孤下の地殻を明らかにし 地質学的地球物理学的地球化学的なデータを入手することは 世界のUMP深層試錐計画のなかで アメリカのモホール計画について注目をひくことになるであろう。とくに地震国日本にとっては 地震予知に関する重要な基礎資料が得られる点でも意義が大きい。

(筆者らは 物理探査部・地質部)

早川正巳 (1966) : 物理探査 ラテイス刊
 市川金徳 (1968) : 大歩危付近地震探査報告 地質調査所月報 vol. 19, no. 6
 市川金徳 (1968) : 水沢付近の地震探査について UMP-A帯研究連絡紙 no. 9
 一色直記 (1967) : B-zone 深層試錐候補としての伊豆大島 1967 UMP 国内討論会資料 (地質学会)
 加納博・蟹沢聡史 (1966) : 黒石構造帯について 変成帯総合研究連絡誌「変成帯」no. 2
 小島丈児 (1966) : 深層試錐候補地としての大歩危について UMP-C帯 連絡紙 no. 5
 Matsuzawa, T. (1959) : On the crustal structure in northeast Japan by explosion seismic observations Bull. Earthq. Re-Inst., vol. 37, p.123
 村内必典・安井正 (1968) : 日本近海における海洋底地球物理学の研究 科学 vol. 38, no. 4
 小貫義男・北村信 (1967) : UMP-A帯 地質構造の総括 1967 AUMP 国内討論会資料 (地質学会)
 高橋末雄・高橋博・鈴木宏芳 (1967) : 試錐内観測装置 防災科学技術総合研究速報 no. 5, p. 71~81
 山下 昇 (1967) : 新版地球科学序説 築地書館刊

引用文献

Findlay, D. C. and Smith, C. H. (editors) (1966) : Drilling for scientific purposes Geol. Surv. Canada, paper 66-13

地学と切手



十和田・八幡平国立公園

堀内 恵彦

代表的なカルデラ湖である 十和田湖と その湖から流れる 奥入瀬の溪流の景観に 雄大な八甲田火山群を含む 十和田地区と火山性高原地帯として 有名な八幡平地区の2地区からなっており 前者は 昭和11年2月1日に公園指定を受け 面積428.62km² 後者は 昭和31年7月10日に追加編入され 面積404.89km² 合計 833.51km² が公園地域で 青森・秋田・岩手の三県にまたがっています

十和田地区・北部一帯に広がる八甲田山は 最高峰を酸湯大岳とする 北八甲田と 櫛が峰のある南八甲田とにわかれ 登山・スキーの適地で その北西 菅野高原は 雄大なスロープで 明治35年に起きた 弘前連隊の 雪中遭難の地でもあり

ます 地域内には 多くの温泉がありますが 国民温泉の酸が湯 大町桂月の愛した 高温泉などは 有名です 面積60km² 湖周46.2kmの十和田湖は 美しい藍色の湖で その凹凸および 溶岩・火山岩の色や断崖などの 変化に富む湖岸が景観に 趣きをそえます 和井内貞行の努力によって 淡水産ますは 年産100万尾以上の出荷があります また 奥入瀬渓谷は 十和田湖から流出する 唯一の流れが 八甲田火山群内を流下して 東方へ脱出する途中の 溪流が造り出した自然美で 周囲の植物群ととけあって すばらしい景観です いずれにしても 十和田地区の景観は 秋の紅葉の季節が最高です

八幡平地区・八幡平・岩手山・乳頭山の三地区にわけられ ここの特色は 各種火山の形態が集まって 大火山群を形成していることで 原始生が保たれていることです 地区の北部一帯に広がる高原の総称で 湿原にはミズパシヨウ・ワタスゲなどが美しく 後生掛温泉付近は 簡単に いろいろの火山活動現象を 楽しめるところです 玉川温泉は 火口跡の石原の各所から98℃の湯が流出し 一大音響とともに5mも噴出するのもみられます 湯瀬洗粉はこの温泉の湯の華で 河床に沈殿する北投石は ラジウム石として 有名です つづく南に岩手富士といわれる岩手山 乳頭山があり 温泉郷としても有名で 岩手山の溶岩流 走りりは 天然記念物となっております 切手は 第一回が 昭和26年6月20日に2円 8円 14円 24円の四種で 第二回は 本年9月16日に7円 15円の二種が 発行されました

(筆者は元所員 現科学技術情報センター)